

12

勝沼精藏先生——日本神経学の開拓者

高橋 昭

名古屋大学名誉教授

勝沼精藏（明治19～昭和38, 1886～1963）は、名古屋大学教授、日本神経学会名誉会員などとして、日本神経学の黎明期に大きく貢献した。

1. 勝沼家

精藏は、父五郎・母顕子（旧姓茂木）の長男として明治19年8月28日に神戸市で出生した。父は、商船学校の第1回卒業生、日本郵船会社の船長。明治30年、澎湖島沖で御用船が沈没し、40歳で遭難死した。

精藏の祖父、精之允信紀は上州館林秋元藩士、長崎の海軍伝習所で学び、戊辰戦争の際に奥羽列藩同盟へ加担した責任をとり、35歳の時に割腹自殺を遂げた。精之允の妻ますは、甲斐武田家の子孫で上山の儒学者であった五十嵐干拙（旧名武田柔兵衛）の長女であった。

2. 学歴

精藏は、神戸師範附属小学校を経て、明治32年4月に静岡県静岡中学校へ進学し、37年4月5日第19回生として卒業、9月に第一高等学校第三部に入学した。在学中に夏目漱石、校長新渡戸稲造から大きな影響を受けた。40年同校を卒業、東京帝国大学医科大学医学科に進学、45年12月15日に卒業した。

3. 三浦，山極，長与教授に師事

明治45年1月、内科学講座に入局、三浦謹之助教授の勧めにより、山極勝三郎、長与又郎両教授の指導を受け生体組織酸化還元の研究を行った。本研究結果を纏めた独文の自筆原稿には、三浦と長与が朱筆を入れた（名古屋大学博物館に保存、Beitr Pathol Anat (1915) 誌に掲載）。Jenaから単行本としても発刊され（1924）、翌年帝国学士院賞を受賞した。

4. 西園寺公望に随行して Paris へ

大正8年1月、第一次世界大戦終結後 Paris で開かれた講和会議に主席全権委員として派遣された西園寺の侍医として、三浦謹之助と勝沼が随行した。勝沼は、Pasteur 研究所や Salpêtrière 病院を訪問、Guillain, Souque, Marie, Widal などの神経学者から臨床神経学を習得した。以後西園寺の晩年まで侍医を務めた。

5. 名古屋へ着任

大正8年8月に帰国、同年11月に愛知県立医学専門学校へ内科学教授として着任。大正9年、同校が愛知医科大学に昇格、12年4月同学教授に任じられた。

大正12年5月から14年6月まで、欧米へ留学、米国では野口英世、ドイツでは Strümpell と交流をもった。

昭和14年3月31日、名古屋帝国大学設置認可、勝沼は附属医院長に就任。昭和24年7月11日に第3代名古屋大学総長に就任するまで内科学第一講座教授。昭和34年7月10日総長退官、名誉教授に推挙された。

この間、文化勲章（1954）、レジオン・ドヌール勲章（1954）、ドイツ大功労十字勲章（1955）、を受賞、Freiburg 大学名誉学位を授与された。

6. 神経学への寄与

1) 学会活動（宿題報告）

間脳ノ臨牀及病理（臨牀的方面）：第35回日本精神神経学会（東京、昭和11年）

脳腫瘍、症候学的方面：第38回日本精神神経学会（東京、昭和14年）

2) 勝沼指導の門下生の主な研究成果

瀧川晃一：球脊髄性筋萎縮症（遺伝学雑誌, 1953）

村上氏広：遺伝性神経疾患の臨牀、遺伝、疫学（Folia Psychiatr Neurol Jpn, 1957）

7. 日本脳波学会と日本臨床神経学会を創設

1) 昭和17年に勝沼が設立した学術振興会「脳波委員会」は、「日本脳波学会」に発展した。「脳波」の語は勝沼の命名による。

2) 昭和31年に勝沼らが設立した「内科神経同好会」は、昭和35年に「日本臨床神経学会」として新しく発足し（38年「日本神経学会」と改称）、勝沼は日本人でただ一人の名誉会員に推挙された。

8. 逝去

勝沼は、昭和38年11月9日、講演中に急性腹症を発症、翌10日に逝去した。腹部大動脈破裂であった。享年77歳。「勝沼家之墓」は東京都染井霊園にあり、京都大谷本廟無量寿に分骨された。